

ごあいさつ



男女共同参画の着実な推進に向けて

阿部 宏 慈

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、平成29年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。文部科学省科学技術人材育成補助事業であるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）の活動報告も合わせて行っておりますので、是非ご覧ください。

今年度は、仕事と子育ての両立支援の面で前進がありました。これまで、大学内保育所としては、医学部保育所「すくすく」と病児保育室、小白川キャンパス保育所「のびのび」を運営してきました。さらに、一層の充実を図るために、山形銀行と連携して、小白川キャンパス内に企業主導型保育所「つぼみ」を開設することにいたしました。国の企業主導型保育事業（整備費）の助成がすでに決定しており、来年度の開所をめざしています。昨年秋に、保育所「のびのび」の共同利用も含めて、山形銀行と協定を締結したところです。さらに、年度末に、荘内銀行の新店内の保育施設を、鶴岡キャンパスの農学部の教職員・学生が利用させていただくことになり、荘内銀行と相互協力・連携協定を締結しました。

さて、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）につきましては、今年度が6年間の事業期間の中間にあたり、総括と中間評価の年でした。お陰様で、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加など、多くの成果をあげることができました。特に、サービスデザインプロジェクトは、本事業の特色として高い評価を得ております。今後も、事務局である山形大学男女共同参画推進室米沢分室を中心に密接な連携体制を維持し、事業を継続していきます。さらに、これまでの取組の成果を継続・発展させるため、ライフイベントに配慮した人事評価制度や人材交流、山形大学COIとの連携、ダイバーシティの大学間ネットワーク構築と南東北への拡大などに取り組んでいく方針です。

振り返ってみますと、本学では、平成21年度に文部科学省の女性研究者支援モデル育成事業として「山形ワークライフバランス・イノベーション」が採択されました。平成22年度に「山形大学男女共同参画基本計画」を策定し、同計画に従って各種の男女共同参画推進事業を推進してきました。女性研究者支援のための研究継続支援員制度や、全職員のワークライフバランスの実現を支援するための諸制度を整備し、上記の採択事業の補助期間終了後も、本学の独自事業として取組を継続してまいりました。その蓄積の上に、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）の事業の成果が積み重なり、今日に至っております。

中期目標に掲げておりますとおり、今日の大学を取り巻く厳しい情勢のもと、イノベーションの担い手として大学に寄せられた高い期待に応えるべく、すべての教職員が性別にかかわらず個性と能力を発揮できる大学をめざす決意しております。「山形大学男女共同参画基本計画」が設定した計画期間も残すところ2年となりました。男女共同参画を着実に推進するため、たゆまぬ努力を継続してまいりますので、関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。